平成 28 年度　第 66 回全道高Ｐ連道南大会参加報告

北海道札幌西高等学校ＰＴＡ

○大会記録

大会主題：「身近な人と結ぶ信頼の絆」

《開会式》

本校のＰＴＡからは、勝木前会長、滝澤顧問、千葉定時制会長、佐竹会長、大條副会長、米田副会長、濵田全日制教頭の７名が参加しました。

開会式では、道高Ｐ連の山本富造会長が挨拶の中で「人口減少、少子化、ＩＴ化、グローバル化などの進展に伴い、高校教育が劇的に変化している。このような状況において、子どもたちの健全育成のために学校と家庭、地域の結びつきを一層強くすることが求められている」と述べられました。また、全国高Ｐ連の佐野元彦会長が登壇し、「これからの社会を生きていくためには、知識や技能の習得だけでなく様々な課題に向けて主体性のある行動力と他者と一緒に力を合わせて物事に取り組む力が求められている。まずは大人が手本として、地域や社会において他者との信頼関係を結んでいくことが重要であること」と、保護者の役割について、「今までのように子どもを保護するという役割だけではなく、これからは子どもの自立を支援する支援者としての視点を持つことで展望が見えてくる」とお話しになりました。



☆大会日程☆

６月１１日（土）函館国際ホテル

１２：００～１３：００

受　付

１３：００～１４：００

開会式・表彰式

１４：００～１５：３０

講　演

６月１２日（日）遺愛女子高等学校

９：００～　９：３０

受　付

９：３０～１２：００

分科会

《表彰式》

引き続き行われた表彰式で表彰された西高の役員は次のとおりです。

【道高Ｐ連感謝状】

勝木　明彦（前ＰＴＡ会長）

勝木様のこれまでのご尽力に感謝申し上げます。

《講　演》

講談師　田辺鶴瑛氏が、「不まじめ介護で重荷を下ろして」をテーマに講演を行いました。



～講演要旨～

田辺氏は、函館市生まれ。遺愛女子高校卒業後、実母に付き添い、義母を介護し、その後義父を自宅で介護しました。講談師田辺一鶴氏に弟子入りし、2003 年に真打ちに昇進しました。介護講談を始め、全国 1000 カ所以上を回り話題となっています。当日は弟子の実娘が前座を務め、その後鶴瑛氏が講談を行いました。テンポ良い講談に観客は引き込まれていきました。特に後半の介護講談では笑いと涙が交錯する内容でした。自身の実母・義母に続く３回目の介護となった義父（脳梗塞・認知症）の自宅介護にまつわる様々な実体験を講談のリズムに乗せ、６年間の歳月を１時間あまりで語りきっていただきました。鶴瑛氏は最後に「感謝し合える介護もあれば、反面教師だと割り切るしかないような介護もあります。でも先々のことを心配したり、不安になったりすることに、何の意味もないのです。『今を大切に生きていくことが、とても大事なこと』だと介護が私に教えてくれました。」と話を結びました。

《分科会》

２日目の分科会は、遺愛女子高等学校と市立函館高等学校で行われました。

【２０１会場：大條理乃副会長】

テーマ：生徒の減少が進む中で、PTA としてできること

全校生徒 61 名という福島商業高等学校の進行のもと、PTA の活動状況や課題等について話し合う時間を持ちました。学校によって抱える事情は様々ですが、地域の特色や産業などを活かし、それぞれ知恵を出し合って活動している様子でした。役員のなり手がいないなどの悩みがあるなか、今 PTA 活動を行っている自分たちがお互いに手を携え、楽しみながら頑張っている姿こそ、周りの人たちや子どもたちの PTA 活動への理解や関心へと繋がるきっかけになるかも知れないとの意見もあり、とても参考になりました。

【２１３会場：米田葉子副会長】

テーマ：家庭と学校が連携した望ましい教育活動について

普通科のほかに定時制、総合学科、商業科、デザイン科などをもつ学校からの参加が多く、それぞれの学校の特色や取組を含めた自己紹介から始まりました。家庭と学校の連携というテーマでしたが、主に学校からの連絡やお便りが届かない、子どもたちが出さないという内容が多く、それに対してメールを使用して保護者に直接連絡している学校が数校ありました。他にホームページの使用や重要な保護者宛のお便りは色分け、あるいは郵送している学校もありました。家庭と学校の連携は、子どもたちを育てるにあたり、とても大切であり、その密度の濃さは、魅力ある学校や健全な子どもの育成に比例しているように思います。保護者として、まず学校に足を運び、その活動を見ること、知ること、感じることが学校への理解に繋がり、お互いの信頼関係になっていくと感じます。家庭と学校のあり方を改めて考えると、とても貴重な良い機会となり、大変有意義な大会となりました。

【２０４会場：濵田哲也教頭】

テーマ：ネット社会と子どもの健全育成と PTA の関わり方

この分科会には、普通高校、商業高校、私立高校の校長、教頭、PTA 会長、副会長など 22 名が参加し、積極的に議論が交わされていました。最初に行われた自己紹介の中では、現在抱えている悩み、特に子どものネットに係る状況など深刻な話題も挙が

ってきました。担当していた函館商業高校定時制 PTA からは、特にネット利用の光と影に焦点を当てて議論が進められていきました。陰の部分では犯罪にまで関わる事例が出され、その対処法や学校での防止対策など現実的な話に皆引き込まれていきました。反面、光の部分も取り上げられ、ある学校では、全校生徒のほとんどの保護者がアドレスを登録し、学校との連絡を全てメールで行う事例や、ホームページを効果的に活用し、緊急連絡等を行っている事例、朝学習に関わる問題等をメールで配信している学校など様々な取組が紹介されました。また、ある保護者からは、子どもと一緒にネットを利用し、会話が弾んでいるとの報告があり、参加者は興味深く聞き入っていました。

この分科会では、多くの参加者が発言し、和やかな雰囲気の中で協議が進められ、有意義な時間を過ごすことができました。参加された皆様と運営を担当された函館商業高校定時制の PTA の皆様に感謝申し上げます。